



図18 全部床義歯のろう義歯試適。上顎前歯部の審美性、咬合関係を確認、適宜修正する。

図19 上顎全部床義歯の口蓋床の形態は発音に影響を及ぼす。パラトグラムでチェックする。

ろう義歯試適において最も重要なのが、患者の主観的評価である。術者側がどんなに良いと判断しても、患者が納得しない場合は次に進むべきではない。臨床術式の不備をチェックするとともに、患者の希望に合わせた修正が必要である。審美性については、手鏡を使って確認してもらい、同意を得る。

部分床義歯の場合、大連結子やクラスプアームの走行や形態に違和感を訴える患者も多い。特にクラスプアームの走行は審美性との関連があるので患者の確認が必要である。フレームワークの設計に問題がある場合は、フレームワークの再設計、再製作を行わなければならない。

症例に応じたろう義歯試適のチェック項目に問題がない場合は、義歯の完成のステップへと移行する。

Column

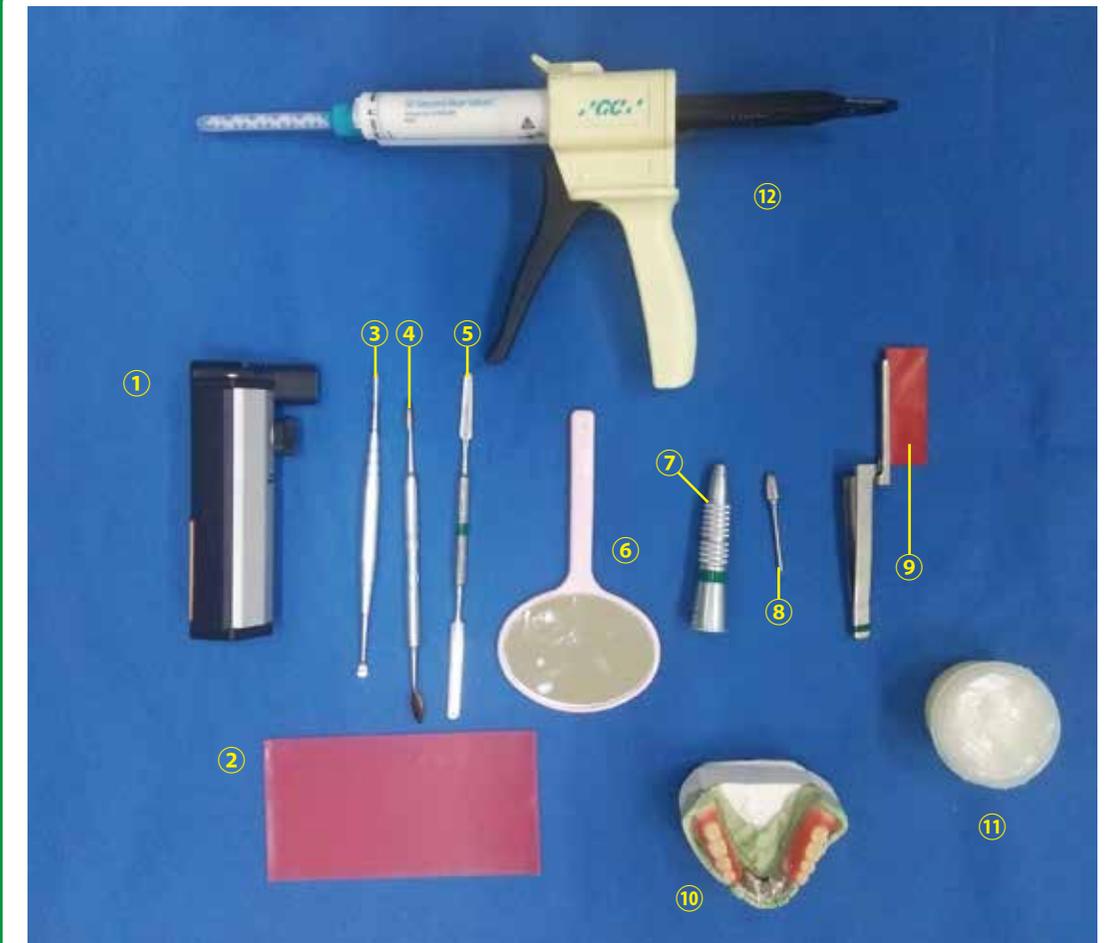
ろう義歯試適時の歯科衛生士の役割

ろう義歯試適は、有床義歯の製作過程においてとても重要なステップである。試適時に、これまでの問題点を見逃せば、装着時もしくはその後にさまざまなトラブルが生じる。この段階で、ある程度修正できることを患者に伝えよう。患者のなかには、歯科医師にはっきり希望を言えない人もいる。そんな空気を感じたときは、患者の気持ちをそっと聞き出すことが歯科衛生士の業務として大切である。



5 人工歯の選択とろう義歯試適の術式と診療補助

使用機材



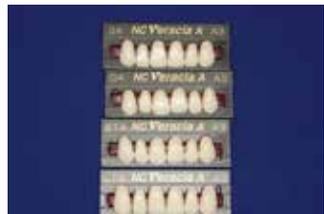
- ① トーチ
- ② パラフィンワックス
- ③ エバン彫刻刀
- ④ ワックススパチュラ
- ⑤ セメントスパチュラ
- ⑥ 手鏡
- ⑦ ストレートハンドピース
- ⑧ カーバイドバー
- ⑨ 咬合紙
- ⑩ ろう義歯
- ⑪ ワセリン
- ⑫ 各種チェックバイト材料

診療手順

1 咬合採得終了



2 人工歯の選択



3 咬合器に装着されたろう義歯



4 ろう義歯試適 (全部床)



5 ろう義歯試適 (部分床)



術者手順
(歯科医師・歯科衛生士)

人工歯の選択は、咬合採得時に行う。

上顎人工歯の選択を行う。臼歯部人工歯は前歯部人工歯排列後に選択する。部分床義歯の場合は、欠損部に適合した人工歯を選択する。

ろう義歯試適をする前に、ろう義歯 (⑩) が指示どおりに完成しているかを確認する。

ろう義歯の内面に凹凸がないかを確認し、完成したろう義歯を口腔内にゆっくりと挿入し、軽く咬合してもらう。

部分床義歯を口腔内に試適する。適合性は、クラスプのレストとレストシートとの適合性で確認する。うまく挿入できない場合は、クラスプ内面の調整が必要である。

診療補助および留意点
(歯科衛生士)

咬合採得時に、モールドガイド、シェードガイドを準備する。

色や形にこだわりのある患者もいるので、患者の気持ちを察して「ご希望はありますか」など声かけすることも大切である。

納品された技工物を確認し、準備する。口腔内に挿入するものであるから、挿入前に、水洗し、アルコール消毒を行っておく。

全部床義歯のろう義歯試適。強く噛みしめないように声がけする。基礎床を削合調整する場合もあるので、削合に必要なバー (⑦⑧) を準備する。

部分床のろう義歯試適。口腔内の適合性に問題がある場合は、クラスプ内面と支台歯との適合性を適合試験材料で確認し、適宜調整する。適合性に大きな問題がある場合は再印象となるので、準備が必要である。

診療手順

6 前歯審美性の確認



7 人工歯列と周囲との調和



8 中心咬合位の確認 (転覆試験)



9 咬合接触関係の確認 (咬合紙検査法)



10 中心咬合位でのチェックバイト



術者手順
(歯科医師・歯科衛生士)

上顎6前歯の排列、歯肉形成、下顎前歯との咬合関係を確認する。口唇豊隆度が変わると、赤唇の厚さや口唇部のしわ、鼻唇溝の深さなどが変化するので、患者の意見を参考に、診断し、適宜修正する。

人工歯列と周囲組織との調和を判断する。ろう義歯の浮き上がりや舌や頬などの誤咬、発音障害など、機能時のことも想定して判定する。

上下顎咬合関係を咬合器上の排列位置を比べながら確認する。中心咬合位での基礎床の安定性は、セメントスパチュラ (⑤) を用いた転覆試験により確認する。

咬合紙検査法や引き抜き試験を行って、咬合接触の強さ、左右のバランスについて検査する。このときは確認にとどめ、最終的には完成義歯をリマウントして咬合の最終的な削合を行う。

中心咬合位において、前後左右的な大きなずれが生じている場合は、中心咬合位のチェックバイトを採得し (⑫)、次回来院時に、もう一度試適を行う。

診療補助および留意点
(歯科衛生士)

上顎前歯部の排列の調和はとても重要である。手鏡 (⑥) を準備し、患者に確認してもらう。排列の修正を行う場合があるので、ガス (アルコール)、トーチ (①)、パラフィンワックス (②)、エバン彫刻刀 (③)、ワックススパチュラ (④) を準備する。火を使うので周囲に注意する。

特に補助はいらないが、違和感や話しづらさはないかについて患者に適宜質問することが大切である。

転覆試験を行う場合は、セメントスパチュラ (⑤) を準備する。

咬合紙ホルダーに咬合紙 (⑨) セットして準備する。数回行う場合は、アルコールワッテなどで、人工歯面の咬合紙をふき取る。咬合紙は適宜交換する。患者には強く咬合しないように指示する。

中心咬合位のチェックバイト採得は、ワックスやシリコーンを用いて行う (⑫)。ワックスを使う場合は、人工歯咬合面に分離材としてワセリン (⑪) を塗布するとよい。

(有田正博)